

被災地の会員様へ

豪雨、地震等の被害へのお見舞い

熊本地震の復興もまだ十分とは言えない今日、その後、福岡、広島、岡山、愛媛等西日本を中心とした豪雨災害、大阪の台風の被害、そしてこの度の北海道胆振東部地震による甚大な被害は被災地の生活はもとより学校教育に大きく影響しています。とりわけ、児童生徒の心身の健康について解決すべき課題が生じていると考えます。

被災地の会員の皆様、豪雨や地震による直接的・間接的に受けた心身への健康など様々な被害について、日本健康相談活動学会理事一同心よりお見舞い申し上げます。

会員ご自身やご家族の被害状況、また避難所となっている学校における諸活動等々、日が経つにつれ緊張状態が続いていることと思います。

とりわけ養護教諭は、二学期が始まり心や体の訴えに対する子ども達への対応など、通常においても諸課題が多い時期であります。この度の震災でなお一層きびしい状況ではないかとお察しいたします。

被災された子ども達の災害を受けた直後は、恐怖感に向かいまず自分の命をつなぎ生きるための最小限の生活維持で精一杯ではないかと思えます。

また、家族、友人、知人の死、ペットの死、家屋や家財の損失等の現実と向かい合ったとき、潜在していた心の中の寂寥感、喪失感等は「心と体の健康」に計り知れない傷となることが危惧されます。まさに、心と体の健康づくりの専門とする養護教諭の行う健康相談の役割が大きいと言えます。今後、日常を取り戻すための教育活動に立ち向かうため乗り越えなければならない多くの課題を長期的に抱え、多くのエネルギーを必要とすることと思えます。

心と体の両面の健康に関わる日本健康相談活動学会としてできることを学会理事全員で支援させていただき所存です。当面は次のようなことを考えています。

- 震災時の養護教諭は何をどのようにしたらよいかなどの資料や講師紹介
- 避難場所となった場合の保健室は何をどのようにすべきか
- PTSDへ症状と対応のポイントについて
- 命の危険や被害にあった子どもや担任教師のサポートについて

忘れないでください。多くの仲間が、今、助け合わなくてはいけないと思っていることを・・・。現場からは、避難所になっている保健室の様子、「泣いていてばかりいても仕方がない。生きているのですからこれからのことを考えます」「助け合えば、頑張れます」等々、勇気を持ち希望をもって前を向いてけなげに生きている姿に感動を頂いています。

本学会は、この困難を共有し、日々被災地の皆様へエールを送っています。心身共に疲労されているかと思えます。サポートをさせていただきます。どうぞ遠慮することなく学会本部事務局にご連絡くださいませ。災害はいつ、どこに起こるかわかりません。自分の問題として考える問題だと思えます。このお手紙は、被災地のみならず全ての会員に同封しています。

日本健康相談活動学会理事長 三木とみ子
同 理事一同

日本健康相談活動学会事務局（女子栄養大学実践養護学研究室）
E-meil : kenko-soudankatsudo@jhaca.org 電話/FAX:049-284-3144

